



11月になりました。朝夕がめっきり涼しくなり、秋の深まりを感じます。季節の移り変わりを身体で感じながら、友達との遊びを存分に楽しんでほしいと思います。

各クラスの遊びや育ちの様子から

【年少りんご組】

神楽の大好きな子がいたり、地域のおまつりに行ったりテレビで見たり、『東太鼓』の体験をさせてもらったりしたことなどから、『お神輿』で遊びたい」と盛り上がってきた年少児。そこで担任は段ボールでお神輿を作ることになりました。段ボールを絵の具で塗りながら「お神輿ってこうやって担ぐんだよ」「上には鳥がのってるよ」などと話し、出来上がるのをワクワクしています。「お神輿が作りたい」といってもそこは年少児。作る技術はまだありません。でも目を輝かせている子ども達のために担任は、子どもにできるところを一緒に作り、後は子ども達が帰った後、一生懸命形にしていました。次の日登園してきた子ども達は「あっ、お神輿だ！私が色を塗ったんだよ」「みんなで作ったがー」と、自分達でお神輿を作った気分満々です。子どものイメージを大切にふくらませ、一緒に作りながら「ぼく達で作ったお神輿」「みんなのお神輿で遊びたい」という気持ちを盛り上げるのが、3歳児担任の腕の見せ所。これからお神輿でどんな風に遊び、楽しんでいくのか、とても楽しみです。

【年中き組】

運動会の競技の中で「オバケの玉入れ」を取り入れたことから『オバケ』が年中児の共通のイメージとして広がってきました。ぶら下がるオバケの飾りを作ったり、絵本のイメージから『オバケの電車』を段ボールで作って『オバケの遠足』に出かけてみたり・・・。「オバケは暗い所に出るよ」という子どもの言葉から、担任は『カブトムシハウス』（10人くらい入れる段ボール製のハウス）の屋根を黒いビニール袋に取り換えました。すると、「オバケハウスだ！」「オバケ電車で行ってみよう」とクラスみんなでイメージを共有しながら遊びが広がりつつあります。カラーポリ袋をマントにし、お化けに変身する子ども・・・。

10月31日には園外保育で荒神谷遺跡公園へ出かけました。バスに乗り込む子ども達を見てビックリ！みんなオバケマント（自作のビニール製）を着ているではありませんか。「みんなでオバケになって、オバケを探しに行くんだ」と大張り切り。イメージと目的をもって出かける姿が伺えました。荒神谷へ着くと、うっそうとした木々や昔の家などがあり、探検しながら「なんかオバケがいそうだね」と歩いたり、昔の家をのぞき込み「おーい、オバケさん」と呼びかけたり・・・。不思議なオバケの世界にひたっている様子が見られました。また、たくさん落ちているドングリを拾ったり、広い原っぱで体を動かしたりし、イメージを膨らませながらの荒神谷遺跡公園を存分に楽しみました。

【年長あお組】

園外保育に出かけた時に見た飛行機が心に残り、「飛行機が作りたい」と様々な素材で作って飛ばそうと取り組みだしました。“どうやったら飛ばかな”と考え、一学期の「風で動く車」の遊びの経験から「輪ゴムを使ったらいいかも」ということに気付き、トイレットペーパーの芯に輪ゴムをつけ、棒に引っ掛け引っ張って飛ばしました。最初はなかなか思うように飛ばず「飛ばないなあ」と首をひねっていた子ども達。でも繰り返し飛ばし、試行錯誤しながら「発射台を斜めにしたらいい」「輪ゴムを強いのにする」「飛行機に羽をつけると良く飛ぶ」など、角度や強度、重さなどで飛び方が違ってくることに気が付きました。友達の良い所を真似したり、自分なりに工夫したりしながら、繰り返し楽しんでいきます。

10月27日には興味を持っている飛行機を間近で見ようと、出雲縁結び空港へ園外保育に出かけました。展望台や空港公園から、離発着する本物の飛行機を見て、「すごく大きいね」「ぼく達が見た赤い飛行機と一緒にだ」「ゴォーって大きな音がする」など気付いたことを話したり、飛び立つ飛行機と競争して走ったりし、飛行機を身近に感じる事ができました。この体験が、遊びにどう生かされていくのか、楽しみに見守りたいと思います。



「おみこしに飾りをつけよう」年少児



「オバケがいるかもよ・・・」年中児



「3、2、1、0、飛行機、発射！」年長児

異年齢との関わりっておもしろい

運動会の後、年長・年中児の競技を「してみたい」と、競技グッズを借りて踊りやキャタピラーなどで運動会ごっこを楽しんでいた年少児。最近、段ボールの電車に乗って「行ってきまーす」と園舎内へお出かけし、いろいろな場へ行くことを楽しんでいます。年長児の部屋で飛行機飛ばしの遊びを見ると「おもしろそう」と見たり、年中児の部屋でオバケハウスを見つけるとこっそり入ってみたりしています。おもしろそうなものを見つける年少児の力はすごい！と感心するほどです。そんな年少児を邪魔扱いせず、「今、飛行機が飛ぶからここは危ないよ」と優しく教えたり、オバケハウスで遊ぶ年少児を「いいよ」と受け入れたりする姿が見られます。でも、だんだんオバケの遊びが広がったり深まったりして、自分達の作ったものがとっても大事になってきた年中児の部屋での出来事。いつものように電車で遊びに来た年少児に、「このオバケ電車は今作っているところで大事だから、壊さないでね」と年中児の男児が言いました。年少児はオバケ電車にも興味津々でしたが、その言葉をきちんと聞いてオバケ電車には触ろうとせず、また電車で年少組へ帰っていきました。

年下の友達に優しくする姿も素敵ですが、自分達の遊びを大事にし、してほしくないことをきちんと言葉で伝えた年中児や、言われたことを素直に聞いた年少児の姿も、とっても素敵だと思いました。これまでの様々な異年齢の関わりがあつての姿だと思えます。いろいろな友達と関わることで、いろいろな経験をし、いろいろなことを学んでいくんですね。年中児のオバケ電車も、自分達が存分に楽しんだ後は、きっと年少児も遊びに招待することと思えますよ。



「あっ、オバケハウスだ。おもしろそう」
(年少児)

「これ大事だから壊さないでね」
(年中児)

絵本の世界は楽しいな

子ども達は絵本が大好きです。遊びの合間やや給食の後に好きな絵本を繰り返し見たり、降園時の絵本の読み聞かせを心待ちにしたりしています。絵本借りの日も待ち遠しくて、「今日はどの絵本を借りようかな」と喜んで絵本を選ぶ姿が見られます。

平田幼稚園では、保護者の方が『めだかのおはなしやさん』というボランティアで、毎月1回各クラスへ絵本の読み聞かせに来てくださっています。また、平田図書館からは2か月に1回、各クラスへ絵本の読み聞かせに来てくださっています。いつもの先生とはまた違う雰囲気の話りに、子ども達はいろいろな絵本の世界を楽しむことができます。

絵本の読み聞かせは、子ども達の心を豊かにしたり、読んでくれる人とのつながりを深めたりします。ご家庭でもぜひ絵本の読み聞かせを続けてください。

※平田図書館から読み聞かせをされた絵本のリストを教えてくださいました。絵本選びの参考にされてはいかがでしょうか。

10月20日（木）の読み聞かせ

○年少組・・・『ハロウィーンくまちゃん』 シャーリー・パレント/文、デイヴィッド・ウォーカー/絵
岩崎書店/刊

『いもいもほりほり』 西村敏雄/作、講談社/刊

『ちいちゃんとおみこし』 しみずみちを/作、ほるぷ出版/刊

○年中組・・・『ふたごのどんぐり』 上野与志/作、いしいつとむ/絵、鈴木出版/刊

『いもほりバス』 藤本ともひこ/作、鈴木出版/刊

紙芝居『ハロウィンしょうてんがい』 とみながまい/作・絵、教育画劇/刊

○年長組・・・『びっくりまつぼっくり』 多田多恵子/文、堀川理万子/絵、福音館書店/刊

『ばけばけはっぱ』 藤本ともひこ/著、ハッピーオウル社/刊

『おだんごころころ』 中脇初枝/再話、MICAIO/絵、偕成社/刊

